

「ジェンダーと教育」の授業の続き

※「ICU入学案内2022」にこの記事の前半部分を掲載しています。

隠れたカリキュラムを探る

西村先生 日本ではさまざまな形で男女別学が存在してきました。これは教育史の遺物だと言う人もいれば、統計的差別から離れられるメリットがあるという人もいます。では、例えば女子校では何が利点と言われているか、知っている人はいますか？

学生 共学だと、委員長が男子で女子は副委員長など、男子がリーダーシップを取りがちです。女子校では女性が常にリーダーです。それから共学だと理系は男子が優勢になりやすいので女子は気後れして理系を選ばない人も多いようですが、女子校ならば女子が理系に進みやすい、と聞きました。

西村先生 そう「別学」なら男女の差別は無さそうですね、一見すると。もう少し考えてみましょう。例えば、1980年まで共学の小学校では、男子は「技術」、女子は「家庭」とカリキュラムが分かれていました。男は仕事、女は家事育児という考え方が学習指導要領など「フォーマルカリキュラム」にも反映され、ジェンダーギャップになっていたわけです。

けれどももうひとつ、「隠れたカリキュラム」というものがあります。これは明文化されてないけれど、日々の

学校生活の中でジェンダー化されていくプロセスを指します。例えば、男女でペアにして座られる。あるいは先生にも生徒にも、服装や話し方に「男性らしさ・女性らしさ」が求められる。制服もそうですね。名前を呼ぶ時、男子は〇〇くん、女子は〇〇さん。授業での指名も、難しい算数の問題は男子に当てて、文学的なものは女子に当てるとか。先生が無意識のうちに“男子だから、女子だから”と接していく「ジェンダー規範」が教育の現場にある。それが「隠れたカリキュラム」です。女子校は、生徒が卒業後に社会の不平等な構造に働きかけていくだけの力を与えられているのか、批判的に問うことも必要です。みなさんの世代でも、思い当たるところはありませんか？

学生 英語の教科書で、社会的な役割を決めているような内容がありました。女性の登場人物は主婦でハウスキーパーです、のような。男性は外で働き女性は家にいるものというステレオタイプですね。

西村先生 そう、教科書の写真でも、実験器具を用意するのは男子、エプロンをつけているのが女子だったりしますね。こうした積み重ねで、私たちはジェンダー規範を知らず知らずに刷り込まれている。それが「隠れたカリキュラム」です。



学歴社会とジェンダーギャップ

西村先生 では、最初の問い「日本は学歴社会と言えるのか？」に戻ります。「学歴社会とは、性別などの属性よりも学歴などが本人の社会的な地位達成に影響する社会」ならば、日本社会の現状はどうでしょう？

学生 例えば女性が有名大学を出ても社会がその努力を充分評価しないので、学歴社会ではないと思います。親の経済力が学歴にも影響を及ぼしている点でも、やはり学歴社会とは言えないと思います。

西村先生 そうですね。性別や経済力が将来にまで影響する。しかも教育投資も息子にはするけど娘には積極的ではない、という家庭もあります。日本は学歴社会のように見えて実はそうではない。男女別々に業績主義が働いているのに疑問視されることが少ない、ある意味不思議な国です。

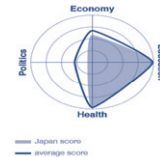
今日は女性視点を意識したトピックが多かったけれど、男性でも不自由はありますよね。例えば育休制度。取りたくても取れない、無言のプレッシャーが社内にあつたり。「取ったら格好悪い」「奥さんが強い家庭と思われたくない」とか、自分の中に障壁があるかもしれない。

こうやって考えるときも、男女の区分だけでなくLGBTQなど、いろんなアイデンティティに配慮する必要があります。ぜひこれからも固定的かつアンフェアな規範で個人の機会や自由が規定されていないか、と考え続け、壁を崩していってください。

授業時に配布された資料（一部抜粋）

グローバルジェンダーギャップ(2020)において153か国中、日本は...

- 全体で121位
- 経済的参加と機会: 145位
- 教育達成: 81位
- 健康と生存: 103位
- 政治的エンパワーメント: 113位



East Asia and the Pacific

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
New Zealand	1	6	0.789
Philippines	2	16	0.781
Latvia	3	43	0.781
Australia	4	44	0.781
Singapore	5	54	0.724
Thailand	6	75	0.708
Mongolia	7	79	0.708
Indonesia	8	85	0.700
Viet Nam	9	87	0.700
Cameroon	10	89	0.694
Burkina Faso	11	95	0.686
Fiji	12	103	0.678
Malaysia	13	104	0.677
China	14	106	0.676
Korea, Rep.	15	108	0.672
Myanmar	16	114	0.665
Timor-Leste	17	117	0.662
Japan	18	121	0.652
Vanuatu	19	126	0.638
Papua New Guinea	20	127	0.635

世界経済フォーラムの「Global Gender Gap Report 2020」のジェンダー・ギャップ指数発表において、日本は153か国中121位（前年149か国中110位）。上位国との比較では、女性の経済的参加と機会の低さのほか、政治参加度の低さ、女性管理職の少なさ、伝統的な社会の構造や風習などが男女格差の原因として分析されています。

